

大規模団地の空き住戸を改修して高齢者及び障害者モデル住宅を整備すると共に、空き店舗を活用した多様多機能の交流活動拠点を整備し、多様な者が継続居住できる環境を提供する

- 対象地は、建設から40余年が経過する、住宅供給公社が建設した大規模団地で、これまでも公社や旭区、地元NPO法人等が連携し、まちづくりマスタープランを作成する等、高齢者、障害者の安全・安心に暮らせる住環境づくりに取り組んでいる。
- 提案は、これまでの取組を発展させ、公社賃貸住棟の上層階の空き住戸を改修し、高齢者モデル住宅・障害者モデル住宅の計画・整備を行う。さらに生活利便機能が集積するセンター地区周辺において高齢者等の移動支援のためのEV・スロープ等バリアフリー整備、空き店舗活用による多世代が集える地域交流拠点の整備、ペットロボットの導入等により、増加する高齢者のみ世帯等の孤立化の抑制、外出・交流を増やす試みを行うものである。
- 上記の取組及び活動成果の効果を検証するとともに、超高齢化と障害者に対応した「住まい・まち」のモデル事例として広く情報発信する。

事業概要

代表提案者	神奈川県住宅供給公社
共同提案者	認定NPO法人 若葉台、一般財団法人 若葉台まちづくりセンター
事業実施場所	神奈川県横浜市
事業実施内容	住宅整備(改修)、施設整備(改修)、技術検証、情報提供・普及
事業実施期間	令和4年1月～令和6年2月

評価委員会での評価内容

- 長年、多主体連携で団地全体のコミュニティをサポートする取組を継続的に実施してきた団体が、それらの取組をさらに発展させる提案である。実効性が高い内容で、他の公的住宅のモデルになることが期待される。
- 本提案は特に高齢者等に着眼するが、多世代における継続居住やコミュニティバランスのとれた住環境の実現のため、若年層や子育て世帯の住まい、障害がある方の就労の場等への目配りにも今後期待したい。

センター地区の現況と整備イメージ

